

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年11月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677100150
法人名	社会福祉法人 以和貴会
事業所名	老人グループホームさくら通
所在地	(電話) 0994-62-8887
自己評価作成日	H28年10月12日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鹿屋市中心街と国道1本で繋がる便利な場所にあり、また、緑豊かな環境の地に当ホームは位置しています。芝生の庭には桜や銀杏の木がそびえ、鳥のさえずりを聞きながら散歩が楽しめます。建物内部は天井が高く開放感があり、食堂ホールから庭を眺めながら食事を摂る事ができます。各居室、食堂ホール、トイレは段差のない床で安全に過ごす事ができます。居間の一部は畳の間を設けており、洗濯物を畳んだり寛いだりするスペースとして利用しています。時には広々とした食堂ホールを利用し、2ユニット合同で敬老祝賀会等の行事を楽しみます。

恵まれた環境の中で当施設は地域に開かれた施設を目指しています。いつでも面会や交流に訪れて貰えるよう職員のマナーに気を配り、気軽に相談できる環境を整えています。ご家族や地域にお住いの方々の温かいご理解、ご協力を得ながら入居後も地域とのつながりを大切にしています。ご利用者お一人お一人の個性や能力を尊重した支援を行い、その能力を維持できるよう健康管理や機能訓練、レクリエーションに趣向を凝らしています。季節を肌で感じ、いきいきと生活していただけるよう、初詣や花見、ばら園見学、夏祭り、みかん狩り等を計画し、外出の機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、鹿屋市街地の自然豊かな交通のアクセスも便利な住宅地に位置している。
- ・隣接して特別養護老人ホーム、デイサービス、居宅介護支援事業所、生活支援ハウス、介護付有料老人ホームなどがあり、法人の行事や通いの地域の方々や友人、知人と日常的に交流している。
- ・理念は、共有スペースなどに掲示され職員が常に意識して業務に取り組めるようにしており利用者との信頼感、プライバシーに配慮した生活空間づくり、本人本位にケアすることの大切さや地域との関わりを重視し、常に理念に寄り添い振り返りケアに取り組んでいる。
- ・運営者や管理者は、キャリアパス導入による資格取得やスキルアップが図れるよう職員の育成にも力を入れている。人事考課システムがあり、自己評価結果を踏まえ職員と面談し個人の目標の達成に向けて研修会に参加しやすいよう勤務体制や職場環境を整備している。
- ・ホームは救急救命士の研修終了者が在職し、急変時や事故防止に備え迅速な対応ができるよう知識や技術を身につけて訓練を定期的に行い、医療機関や訪問看護師、消防署と連携して利用者だけでなく地域にも貢献したいとの思いで支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を日常的に確認できる所へ掲示し、スタッフ全員がその理念に沿ったケアを提供できるよう日々努力している。	理念は、施設に掲示され2ヶ月1回の会報にも掲載している。職員は、理念を意識し日々のケアに取り組んでいるが、地域とのふれあいを多く持ちたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会に利用者スタッフに参加したり、敬老祝賀会、夏祭り等の行事には地域の方々を招待し、交流を深めている。	自治会に加入し、回覧版を通じて地域の行事などの情報収集をおこなっている。中学生の職場体験、実習生の受入れも柔軟に取り組み、地域の行事への参加ができるよう家族と連携しながら支援し、法人の行事に地域住民も招待し交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の中学生の福祉体験学習を受け入れたり、随時見学者も受け入れ、認知症高齢者に対する理解の一助となるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常の活動や行事等への取り組みを写真や資料等を用いて報告している。事故報告や施設の課題等に対し、出された意見は施設運営に活かしている。	家族代表は、1年ごとに交代し参加していただいているが、会議は、制度説明や福祉用具導入についても理解を求めるとメンバーからの活発な意見交換の場になっている。また、会議の記録は、毎回郵送し、閲覧もできるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所も参加し、意見交換している。報告義務のある介護事故は随時報告し、指導や助言を貰っている。	市担当者や福祉事務所担当職員とは、電話や面談などで相談や助言をいただくなど日頃から協力関係を築いている。市主催の研修会の案内があり、職員は積極的に参加するよう心がけている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議内で研修会を行い身体拘束等禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるよう1年に2～3回程度研修を行っている。	法人や施設内での研修が充実しており、毎月、担当委員により状況確認をしたり、年1回マニュアルを踏まえ理解を深めている。また、外部研修への参加もあり、権利擁護に基づく身体拘束の弊害について学習している。スピーチロックについては、ユニット会議で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の法人内研修や施設内研修、外部研修に参加し、職員の意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センター主催の研修や施設内研修で権利擁護、成年後見制度に関する勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約の時には重要事項を利用者、家族に分かりやすく丁寧に説明し理解、同意を得ている。内容が変更になった際にも変更理由を説明し、署名、捺印を貰っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から利用者と十分にコミュニケーションを図るよう心掛け、随時、利用者の意見、要望を傾聴し、改善すべき事項に直ぐに対応している。家族も面会時や担当者会議、運営推進会議等で気軽に意見を出せるよう機会を設けている。</p>	<p>利用者とは、十分に会話するなど普段の生活中で意見、要望を聞き取るようにしており、家族にも面談した時に直接聞いたり、運営推進会議で話をすることも多くいつでも意見などが出しやすい雰囲気作りに努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議等で出された意見や提案等は代表者に報告し、管理者とともに改善に向けて検討したり、職員と個別に話し合う機会を持つ等、施設や職員のサービスの質の向上を図っている。</p>	<p>人事考課システムがあり、管理者は個人面談し、個人の悩みや相談も含め職員の意見、提案などを聞き取る体制ができている。また、資格取得に向けて理解を求めるなどサービスの質の向上を図ったり、全職員合同ユニット会議で話し合っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>キャリアパス導入により資格取得やスキルアップが図れる仕組みを構築し、定期的に自己評価、上司の助言、指導を行い、各自が向上心を持って働けるよう給与水準、職場環境を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職員に対しては新人職員指導マニュアル(エルダーメンター制度)により、育成している。中堅職員、管理者は各レベルに応じた外部研修に参加し、スキルアップできる機会を確保し、自己研鑽も促している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や大隅地区介護事業所連絡協議会に加入し、初心者、中堅、管理者など各レベルに応じた研修に参加し、他事業所との情報交換の機会としても役立っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人の生活歴や趣味、嗜好など情報提供を受け、施設内でも自分のペースで生活できるよう環境を整えている。また、入居後も面会や外泊、電話等で家族の協力を得ながら不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は意識して話しやすい環境、関係作りに心掛け、不安や悩みを打ち明けて貰えるよう努めている。家族の周囲に理解して貰えない入居者本人との関係性の行き詰まりを理解し、労いながら傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどのような事で困っているのか、何を求めているのかを把握し、必要に応じて他の介護保険サービスや医療、保健サービスも説明し、居宅支援事業所の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、お一人お一人の能力を理解し、職員は年齢を重ねた先輩として敬い、知識や経験からお互いアドバイスを貰えるような関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とは面会や電話等で随時情報交換を行い、利用者と家族の関係性を理解しながら、絆を大切に、家族とスタッフ全員で協力し合い利用者を支えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居前にかかっていた主治医との関係を継続し、また、利用していた商店や理容店、家族、友人との付き合いを継続できるよう支援している。</p>	<p>職員は、利用者の生活歴や家族の情報を基にこれまでの人との関わりや場所との関係が途切れないように、いきつけの美容院やお店の利用、家族と一緒に墓参りをしたり、知人、友人の面会など、馴染みの関係継続に配慮している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う利用者同士が安心して過ごせるよう居間や食堂の座席を考慮し、孤立しがちな利用者に対しては職員が間に入り、会話の橋渡しをするなど配慮し、支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了後も関わりを必要とする利用者や家族へは気軽に来所して貰い、必要に応じて支援している。少しでも安心していただけるよう契約終了後の関係も大切にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や職歴、趣味嗜好等を把握し、個々の残されている能力を活用しながら、その人のペースに合った望む暮らしが送れるよう支援している。	本人の言葉や暮らしぶりを見ながら職員は、ユニット会議で本人の思いを話し合い、家族にも聞き取りをして職員全員で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での日常生活の状況等を本人や家族、居宅支援事業所からの情報提供を受け、本人のできている活動、できる活動、有する能力の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が個々の生活のペース、ADLの状況等を把握し、心身の変化についても随時ユニット会議等で報告し、情報を共有して、常に現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の解決すべき課題を明らかにし、本人、家族に希望や要望を尋ね職員間で話し合い、介護計画を作成している。また、毎月1回のユニット会議で利用者別の担当職員から状態変化について報告があり、必要に応じて計画を見直している。	生活活動参加型プランであり、家族、地域といったインフォーマルサービスを重視している。短期目標の期間設定により定期的にモニタリングしたり、毎月ユニット会議で担当者からの報告があり必要に応じて見直しを検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録には毎日の生活状況や変化を記録し、変化があった時にはその都度ミーティングや職員連絡ノートで全職員が情報を共有できるようにし、介護の実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	絶えず変化する利用者、家族の意向に適切に対応できるよう小規模施設の特徴を生かし、直ぐに職員間で話し合いの場を持ち、臨機応変な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや敬老祝賀会の行事には家族や民生委員、ボランティア、行政機関を招待し、運営推進会議には民生委員、地域の町内会長を委員に加え、地域住民との関わりに努め、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の本人かかりつけの医療機関や、かかりつけが特にならない場合は、本人や家族が希望する医療機関と協力関係を築き、安心して医療が受けられるよう支援している。	本人、家族の希望するかかりつけ医であり、主治医や訪問看護師が担当者会議に出席するなど医療との連携が密に図れている。訪問診療があり、他科受診や緊急時の受診の場合は、職員と家族が同伴するなど協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態に変化が現れた場合にはかかりつけ医療機関や契約している訪問看護事業所へ状態報告し、指示や助言を受け必要時は受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人に関する情報等を入院先の医療機関に提供し、スムーズに治療が行われるよう協力している。また、入院中の本人の状態について随時、医療機関のソーシャルワーカーから情報を得ながら、本人の状態を把握し、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族に対して、重度化した場合の施設の方針を説明している。状態が変化した場合には必要な情報を提供し、随時話し合いながら、本人や家族が希望する適切なサービスを提供できるよう支援している。	「重度化した場合の対応に係る指針」や意志確認書があり、早い段階から本人、家族、関係機関と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、共にチームケアにて取り組んでいる。事業所は、職員のメンタルケアにも配慮し、内部研修を実施したり、外部研修にも積極的に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	契約している訪問看護事業所の看護師により緊急時対応の研修を受けたり、消防署主催の救命講習会に参加し急変や事故発生時に備え、知識を身に付けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域住民、町内会長を交え、隣接する施設とも協力体制を取り、年に2回、昼間想定、夜間想定で定期的に消防署の立ち合いの下、避難訓練を実施している。また自主避難訓練を半年に1回行っている。</p>	<p>地域や法人の協力体制があり、年2回昼夜想定で避難訓練を実施している。ホームは災害時のシェルター機能も併せ持ち、平成30年迄には、1号館も自動通報装置の設置が予定されている。また、半年に1回自主訓練や研修もしている。水やカップ麺などの備蓄も完備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーの保護については、特に排泄や入浴、居室入室時の声のかけ方には細心の注意を払い対応しています。全スタッフが思いやりを持ち、相手の立場に立って接するよう努力している。	プライバシーについては内部研修を毎年実施し職員の意識向上を図っている。利用者の人格を尊重し誇りを傷つけることがないよう統一した声かけや言葉使いを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、利用者一人一人に合った分かりやすい説明を行い、シンプルに答えやすいよう質問の仕方に配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態を把握し、お一人お一人のペースに合わせてサービスを提供している。本人の希望や体調を勘案しながら希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類等は本人の好みやその時々気分での選択できるよう協力します。また、散髪についてはご本人の希望が、理容ボランティアに伝わるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を入れた献立を作成したり、嫌いな物やアレルギー等あれば代替え品で対応している。また、可能な限り準備や後片付けを一緒に行うよう努めている。	法人の管理栄養士の献立をベースに担当職員がメニューを作成している。家族の面会時は、居室で食事したり、職員と近所の店で回転焼きやアイスクリームを食べに出かけることがある。重度化もあり食事形態を工夫したり、食事介助の必要な方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した栄養バランスの取れた献立を個々の嚥下状態や好みに合わせた食事形態で提供している。スプーンや箸、フォークなどご本人の習慣や状態に合わせて準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能を活かし、声かけや誘導、一部介助を行っている。また、スタッフは口腔内を観察し歯周病などのチェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、お一人お一人の排泄の間隔を把握した上で本人のペースに合わせて排泄の声かけや誘導を行っている。	排泄チェック表を作成し、排泄のリズムを把握するとともに、本人のサインを見逃さずなるべくトイレで排泄ができるよう誘導している。夜間は、おむつ交換やポータブルトイレを併用し排泄の自立支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに食物繊維を多く取り入れ、水分は適切な水分量を摂取できるよう飲み物の種類を変えて提供する等工夫している。また、毎日体操やレクリエーションを行い、適度な運動を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日予定日に限らず、ご本人の希望や身体の汚染状況で入浴している。また、入浴の順番も希望により調整している。	入浴を楽しみにされている方も多く、利用者一人ひとりが自分のペースでゆっくりと入浴が楽しめるよう配慮し、入浴の順番も調整して気持ちよく入浴していただいている。また、家族と温泉に行かれる方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意向により居室で寛ぐ時間を持ったり、外出後に休憩したりしている。夕食後はリビングでテレビ観賞して過ごす方もいて就寝時間はそれぞれ異なる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳は受診時に必ず持参し常に医療機関へ提示できるようにしている。お薬情報は目的、用法、用量、副作用等について職員は理解し、症状に変化があれば医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理や自分の部屋の片づけなど生活歴や有する能力を引き出し、役割を成し遂げた際の喜びや楽しみ、生きがいを持って生活していけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望、また天候等に応じ、屋外散歩や外食ショッピング、季節を感じられる場所への外出を支援している。地域の運動会への参加は地域の方々、ご家族と協力しながら支援している。	天候の良い日は、園庭を散歩したり、ドライブを楽しんでいるが、初詣、花見や夏祭り、みかん狩り、クリスマスイルミネーション見物、二十三夜市など年間外出する機会も多く、ユニット合同だったり、個別の外出支援をおこなっている。外泊をされる方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人、家族の意向で自己管理できる程度の現金を所持し、外出や買い物の際に自分で支払いができるよう支援している。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が希望する時にはいつでも電話が掛けられるよう支援している。手紙に関しては、プライベートに配慮し、本人が希望した場合には代読している。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やウッドデッキ、食堂ホールには季節の花々や観葉植物を飾り、また、居間には仏壇を置き家庭的な雰囲気落ち着きのある空間を演出している。食堂ホールの掲示物は季節ごとに取り替え、季節感を出している。</p>	<p>玄関、内扉と二重になっているが施錠していない。季節の生花が活けてあり、リビングダイニングは天井が高く採光もあり、一段高い畳スペースがある。ソファでは思い思いにくつろぐ様子が伺え、食卓では、調理の下ごしらえを手伝う方もいる。壁には利用者の作品や写真が掲示され、生活感を与えてくれる空間である。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>寛ぎのスペースとして居間のソファで他の利用者とテレビを観たりして過ごす場所や。寂しくならない程度に一人の時間を職員に見守られて過ごすキッチンカウンター席やテーブル席がある。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内は自宅で使用していた衣類、家具、小物、ご家族との写真等に囲まれ、利用者が居心地良く安心して生活できるよう工夫している。</p>	<p>フローリングや畳部屋があり、床下収納庫には、衣類などを収納している。アルバム、書籍、クッションなど馴染みの物を持ち込み、編み物が趣味の方もおられたり、身体機能に適した住環境を整え過ごしやすい工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>日時が分かるよう目に付く場所に大きめの日めくりカレンダーを設置し、また、廊下やトイレ、浴室に手すりを施し、難聴の方に分かりやすいよう手作りのコミュニケーションカードを利用している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない